

# めぐみ厚生センター恵友会 会報

第338号

めぐみ厚生センター恵友会

法人本部	0952-25-2797
めぐみ園	0952-34-7722
富士学園	0952-63-0107
ウイズ富士	0952-51-0063

発行人 副島 勉

郵便振替 事務局 めぐみ厚生センター恵友会 口座番号： 01770-6-12389  
〒840-2223 佐賀市東与賀町大字飯盛1584 (めぐみ園内) : tel 0952-34-7722



『地域の隣人として』

恵友会 監事  
佐賀市西与賀在住

平山 修子



皆様、はじめまして。

この度、恵友会の監事を務めることになった、平山と申します。簡単な自己紹介として、幼い頃より佐賀県佐賀市の西与賀地区に住しており、以前は農協の西与賀地区女性支部長をしておりました。今回、役員の打診を受け私で務まるだろうか？と躊躇しましたが、子育てを終えた現在、これからの人生の中で地域の方々へ少しでも役立つことが出来れば、とお受けしました。

今から約18年前、めぐみ園が東与賀に移転することを聞いて、なぜか懐かしさを覚えました。というのも、高校生の頃、親しかった友人が緑小路にあった時代のめぐみ園の関係者で、障がいを持つ方の園での様子や利用者さん一人ひとりが純粋で、どんなに愛おしい存在かを良く聞かされており、実際に利用者さんの笑顔に接し、繋いだ手の温もりを感じた時に、耳にしてきた「愛おしさ」が理解できました。高校を卒業してからは友人とも疎遠になり、私もめぐみ園のことは忘れていましたが、移転後は高校時代の思い出が蘇り

ずっと気になりながら過ごしてきました。

自宅は西与賀ですが、隣町の東与賀でも仕事をしており、めぐみ園の利用者さんが外で畑作業をされているのを、よく見かけます。今はコロナの影響で控えているようですが、以前は10人位のグループに分かれて散策をされていました。どの利用者さんも楽しそうに、職員さんと話しをし、ゴミ拾いをしながら歩かれており「恩送り」という、私の好きな言葉が浮かんできました。助けや優しさをくれた相手に何らかの形でお返しする「恩返し」ではなく、自分が受け取った思いやりのある行為を、全く関係のない人に受け渡していくのが「恩送り」です。この場合は地域への「恩送り」でしょうか。今の世の中、恩を仇でかえすことや、受けた恩も忘れ自分達さえ良ければいい、という風潮が蔓延る中で、職員さんと利用者さんには権利の主張ではない、温かい信頼がそこに存在していました。

福祉には詳しいわけではありませんが、両親の介護や地区のPTAの仕事もしてきた中で、サービスを必要とする高齢者や子供達が想像以上に多いことを実感しています。

皆さんもご存知のように、働き手が減り様々な産業でAIが活躍する時代となり、農業も新しい時代に順応していくことが、必要不可欠です。けれど、どんなに技術が進化しても、「ものをつくる」過程において欠かせないのは、思いやる気持ちだと思えます。一つひとつの野菜に声をかけ、うまく出来たら褒めてあげる、上手く育たなかったら心配する、そんな表現が出来るのは人間ならではの事です。そんなちよつとしたことが、高齢者支援にも、子供の教育の場にも不足しているのかもしれない。どんなに時代が変わろうともそんなちよつとした気遣いを忘れずに「恩送り」の精神を持ち、大切な作物を作り続けたいと考えています。



実は、3年ほど前に我が家の畑でめぐみ園の皆さんとタマネギの収穫をしましょう！と企画しましたが、コロナの影響で断念しました。代わりに、昨年は収穫したタマネギを寄贈させてもらい、皆さん喜んで食べてくださった、と聞いています。

これから、恵友会のメンバーとして、めぐみ厚生センターの利用者さんの応援者として、心を込めて会のために尽力していきたいと思っています。





◎会費納入ありがとうございます

ございました。

令和4年10月15日現在  
敬称略

- 大内道雄、平野弘治、大塚恒順
- 桑原義勝、古賀保弘、佐藤忠志
- 高野勝美、勘田 勲、平 栄喜
- 嶋原貞雄、山崎圭子
- めぐみ園家族会58名
- 池田 莉、栗林聖子

\*会費納入について\*  
 会費は年間2000円です。  
 今年度分の納入がお済みでない方は納入をお願い致します。



坂井貴久さん作品



久住榮譽さん作品

|| 恵友会より ||

なかなか、コロナが落ち着かず今年  
 は、なんと！インフルエンザとの同時  
 流行もあるとか・ないとか・。

恵友会も3年間は具体的な活動は出  
 来ませんでした、厚生センター利用  
 者の方が元気で過ごしておられる状況  
 をお聞きし安堵しております。

来年度は、視察研修や両園の行事に  
 参加しての交流が出来ることを、ひた  
 すら願っております！

次号は2023年2月になります。

(編集局)

概要報告



第61回九州地区知的障害関係施設長等研究大会



2022年10月4日～5日に、佐賀市内で上記研究大会が開催されました。  
 実りある内容で、これからの障害福祉に必要な要素が組み込まれた内容となっており、概要になり  
 ますが報告と大会のご紹介をいたします。

〈大会のテーマ〉

考えよう! 私たちに求められていることは ～未来に向けて、今何をすべきか?～

〈趣 旨〉

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は人々の生活を一変させてしまった。地球温暖化が要因なのか、近年は全国各地で甚大な自然災害が多発している。2040年問題といわれる現役世代の労働人口減少とそれに伴う社会保障費の増大は今後の大きな課題だ。当たり前の日常を送ることすら難しくなってきた社会の中、それでも私たちは障害福祉の新たな未来を築き、施設利用者や職員の暮らしを守っていかなくてはならない。幅広い視野で社会の動向を見極め、変化に対応出来る柔軟な施設運営を行っていくために何が必要か、本大会を未来への備えを考える契機としたい。

〈主 催〉

九州地区知的障害者福祉協会 佐賀県知的障害者福祉協会

〈参加対象者〉

施設長・事業所管理者・サービス管理責任者・その他関係機関の職員等

〈記念講演〉

テーマ 「ダウン症の娘と生きて」 講師：金澤泰子 氏 ※当日は、金澤翔子氏による席上輝毫がありました※

〈基調講演〉

テーマ 「技術革新が創り出す未来の社会とは」 講師：木村隆夫 氏 (木村情報技術株式会社 代表取締役)  
 =次世代必須！無から生み出すICT！「こんなのがあったらいいな」を実用化していきます。=

〈分科会〉

- 1：障害福祉サービス事業所における業務継続計画 (BCP) コロナ・災害等でも継続的にサービス提供が出来る対策作り。
- 2：人材確保・育成・定着 2040年問題を踏まえ福祉人材の確保と、どのように育成に繋げ利用者のサービス充実を図るか？
- 3：ICTを利用した業務改善 記録・資料 etc・・・少ない職員数でも可能になる業務改善対策と活用のあり方。
- 4：今後求められる住まいの環境を考える 建て物のリノベーションと利用者にとって住み良い環境とは？補助金対策！
- 5：社会福祉連携推進法人制度をどう捉えるか！ 福祉法人の協働・連携を図り経営基盤強化や地域共生に取り組む。

毎年、九州各県で担当している研究大会ですが、今年は昨年引き続き「ハイブリット形式」で開催され「未来から見た現在が何をすべきか」という大会趣旨に基づき各分科会も「未来」を意識したものになりました。当日は、コロナの影響も心配しましたが、現地126名、web186名の参加者が集い有意義な時間となりました。人的な世代交代も然り、制度の変容・意識の改革も然り、時代と共に様々なことやものが変わっていきませんが、『温故知新』の精神は忘れずに『誰のための福祉サービスか』を追及し発信する社会福祉法人であり続けたいと佐賀県日本知的障害者福祉協会は考えています。



「共に生きる」と書かれました。



ダイナミックで  
繊細な文字でした！

